

藤田正勝教授・著作一覧

【著書】

1. Philosophie und Religion beim jungen Hegel. Unter besonderer Berücksichtigung seiner Auseinandersetzung mit Schelling. Hegel-Studien, Beiheft 26. 1985 Bouvier.
2. 『若きヘーゲル』, 1986, 創文社
3. 『現代思想としての西田幾多郎』, 1998, 講談社
4. 『西田幾多郎——生きることと哲学』, 2007, 岩波書店 (岩波新書)
5. 『西田幾多郎の現代思想』 (呉光輝訳), 2011, 中国・河北人民出版社
6. 『西田幾多郎の思索世界——純粹経験から世界認識へ』, 2011, 岩波書店
7. 『哲学のヒント』, 2012, 岩波書店 (岩波新書)

【編著書】

1. 『シェリング読本』 (高山・長島・藤田・松山編), 1994, 法政大学出版局
2. 『シェリングとヘーゲル』 (高山・藤田編), 1995, 晃洋書房
3. 『日本近代思想を学ぶ人のために』, 1997, 世界思想社
4. 『欲望・身体・生命——人間とは何か』 (藤田・松丸編), 1998, 昭和堂
5. 『新しい教養のすすめ 宗教学』 (細谷・藤田編), 1999, 昭和堂
6. 『転換期のフィロソフィー』 第6巻 『転換期としての日本近代』 (茅野・藤田編), 1999, ミネルヴァ書房
7. 『シリーズ近代日本の知』 第1巻 『知の座標軸』, 2000, 晃洋書房
8. 『理解しやすい倫理』, 2000, 文英堂
9. 『京都学派の哲学』, 2001, 昭和堂
10. 『清沢満之——その人と思想』 (藤田・安富編), 2002, 法蔵館
11. 『中日共同研究——东亚近代哲学的意义』 (卞崇道, 藤田正勝, 高坂史朗主编), 2002, 沈阳出版社 (中国)
12. 『九鬼周造の哲学』 (坂部・藤田・鷺田編), 2002, ミネルヴァ書房
13. 『東アジアと哲学』 (藤田・卞・高坂編), 2003, ナカニシヤ書店
14. “Synthesis philosophica” 37, “Philosophie in Japan” (Hrsg. von Mine, Fujita und Barisic), 2004 Zagreb
15. 『世界のなかの日本の哲学』 (藤田・デービス編), 2005, 昭和堂
16. 『『善の研究』の百年——世界へ/世界から』, 2011, 京都大学出版会
17. 서양철학의 수용과 변용——동아시아의 서양철학 수용의 문제 (이광래, 후지타 마사카쓰 편), 2012, 경인문화사 (『西洋哲学の受容と変容』, 李光来・藤田正勝編 2012 ソウル・景仁文化社)

【編集】

- 1.『西田哲学選集』別巻2『西田哲学研究の歴史』, 1998, 燈影舎
2. 和辻哲郎『新編日本精神史研究』, 2002, 燈影舎
- 3.『西田幾多郎全集』(竹田篤司、リーゼンフーバー、小坂国継、藤田正勝編), 2002-2009, 岩波書店
- 4.『田辺元哲学選』全4巻, 2010, 岩波書店 (岩波文庫)
5. 西田幾多郎『善の研究』, 2012, 岩波書店 (岩波文庫)

【監修】

- 1.『三木清の生涯と思想・生誕百周年記念』(濱田義文・藤田正勝監修、室井美千博編集), 1998, 財団法人霞城館

【注釈】

1. 九鬼周造『「いき」の構造』, 2003, 講談社学術文庫
2. 九鬼周造『「粋」的構造』, 2009, 台湾・聯経出版

【論文】

- 1.「イエナのヘーゲルと『精神現象学』」, 1977,『哲学論叢』第4号
- 2.「ヘーゲルによるカント実践哲学の受容」, 1983,『哲学』第33号
- 3.「自由と美、あるいは生」, 1983,『宗教研究』第256号
- 4.「現代ドイツにおける『精神現象学』研究の状況と意味」, 1983,『理想』第605号
- 5.「若きヘーゲルにおける「生」の概念」, 1984,『関西哲学会紀要』第18冊
- 6.「哲学的人間学——その歴史と課題」, 1985,『名城大学教職課程部紀要』第17巻
- 7.「人間の尊厳と教育」, 1985,『教育哲学研究』第52号
- 8.「科学技術と人間——哲学の人間学の展開(1)」, 1986,『名城大学教職課程部紀要』第18巻
- 9.「意識の歴史」, 1986, 中埜肇編『ヘーゲル哲学研究』, 理想社
- 10.「西田幾多郎によるヘーゲル哲学の受容と批判」, 1987,『宗教哲学研究』第4号
- 11.「真理について——若きヘーゲルの有と無をめぐる思索」, 1987,『中部哲学会会報』第19号
- 12.「感覚から絶対知への精神の遍歴」, 1987,『ヘーゲル読本』, 法政大学出版局
- 13.「日本における〔西田哲学〕研究史の概観と現状」, 1987,『西田哲学——新資料と研究への手引き』, ミネルヴァ書房
- 14.「知を愛する——ソクラテスの生と死」, 1989,『点から線へ』第18号
- 15.「形成・教養・教育(1)——ヘルダーとフンボルト」, 1990,『Justitia』第1号
- 16.「体系の形成と宗教」, 1990,『ヘーゲル学報』第1号

17. 「ヘーゲルとヘルダーリーン」, 1990, 『講座ドイツ観念論』第五巻『ヘーゲルとの対話』, 弘文堂
18. 「シェリング哲学の最近の研究動向」, 1993, 『シェリング年報』創刊号
19. 「イデアリスムスとロマンティック」, 1993, 『叢書ドイツ観念論との対話』第1巻『総説・ドイツ観念と現代』, ミネルヴァ書房
20. Hegels Kritik an Schelling. In: Gawoll/Jamme(Hrsg.): Idealismus mit Folgen. Die Epochenschwelle um 1800 in Kunst und Geisteswissenschaften. Festschrift zum 65. Geburtstag von Otto Pöggeler. München 1994.
21. 「西田幾多郎『善の研究』とヘーゲル『精神現象学』」, 1994, 『叢書ドイツ観念論との対話』第6巻『ドイツ観念論と日本近代』, ミネルヴァ書房
22. 「西田幾多郎とヘーゲル」, 1994, 上田閑照編『没後五十年記念論文集 西田哲学』, 創文社
23. 「積極哲学と消極哲学」, 1994, 『シェリング読本』, 法政大学出版局
24. 「後期シェリングとキェルケゴール」, 1994, 『キェルケゴール研究』第24号
25. 「木村素衛とフィヒテ」, 1994, 『フィヒテ研究』第2号
26. 「経験と言葉——沈黙の語り」, 1995, 鍛治哲郎ほか編『経験と言葉——その根源性と倫理性を求めて』, 大明堂
27. 「「無神論論争」とカントの「最高善」の理念」, 1995, 『理想』第655号
28. 「ヘーゲルの『精神現象学』とシェリングの『自由論』」, 1995, 高山・藤田編『シェリングとヘーゲル』, 晃洋書房
29. 「西田哲学における行為と歴史の問題」, 1996, 大峯顕編『西田哲学を学ぶ人のために』, 世界思想社
30. 「シェリングにおける哲学と宗教」, 1996, 『理想』第657号
31. 「ことばと思索」, 1997, 『上水内教育』第79号
32. 「西田哲学とことばの問題」, 1997, 『点から線へ』第33号
33. 「日本古より今に至る迄哲学無し——中江兆民」, 1997, 藤田編『日本近代思想を学ぶ人のために』, 世界思想社
34. 「純粹経験・場所・絶対弁証法——西田幾多郎」, 1997, 藤田編『日本近代思想を学ぶ人のために』, 世界思想社
35. 「自己と他者」, 1997, 実存思想協会編『実存思想論集』12『他者』, 理想社
36. 「ことばと思索——あるいは日本語と哲学」, 1997, 『哲学研究』第564号
37. 「言葉とものの見方」, 1997, 『求真』第4号
38. 「経験をめぐって——ヘーゲル・ハイデガー・ガダマー」, 1997, 『理想』第660号
39. 「西田幾多郎」, 1998, 山本誠作・長谷正當編『現代宗教思想を学ぶ人のために』, 世界思想社

40. 「自己と他者——間柄と間柄を超えるもの」, 1998, 『上水内教育』第80号
41. Questions posed by Nishida's Philosophy. In: Zen Buddhism Today (published by The Kyoto Seminar for Religious Philosophy), No. 15. Kyoto 1998.
42. 「序——欲望・身体・生命」, 1998, 藤田・松丸編『欲望・身体・生命』, 昭和堂
43. 「ロマン主義者フィヒテ」, 1998, 『フィヒテ研究』第6号
44. 「宗教学への誘い」, 1999, 細谷・藤田編『新しい教養のすすめ・宗教学』, 昭和堂
45. 「西田哲学が問うもの」, 1999, 『転換期のフィロソフィー』第6巻『転換期としての日本近代』, ミネルヴァ書房
46. 「近代の超克」をめぐって——戦争と日本人の自己認識」, 1999, 青木保ほか編『近代日本文化論』第2巻『日本人の自己認識』, 岩波書店
47. 「生と表現」, 2000, 『宗教哲学研究』第17号
48. 「哲学と文化」, 2000, 『アルケー』(関西哲学会年報) 第8号
49. 「日本の哲学?」, 2000, 『シリーズ近代日本の知』第一巻『知の座標軸』, 晃洋書房
50. Hegels Phänomenologie des Geistes und Schellings Freiheitsschrift. In: J. Sandkühler und J. Matsuyama (Hrsg.): Natur, Kunst und Geschichte der Freiheit, Studien zur Philosophie F.W.J. Schellings in Japan. Frankfurt/M u. a. (Peter Lang) 2000.
51. 「場所——根底からの思惟」, 2000, 『日本の哲学』第1号
52. 「情意における空」, 2001, 竹内・古東編『ニヒリズムからの出発』, ナカニシヤ書店
53. 「西田幾多郎の場所論の射程」, 2001, 藤田編『京都学派の哲学』, 昭和堂
54. 「語りえないものとしての神」, 2001, 長谷正當・細谷昌志編『宗教の根源性と現代』第2巻, 晃洋書房
55. 「清沢満之と西田幾多郎」, 2002, 藤田・安富編『清沢満之——その人と思想』, 法蔵館
56. 「日本文化、東方文化、世界文化」, 2002, 下・藤田・高坂編『中日共同研究——東亜近代哲学的意義』, 瀋陽出版社(中国)
57. 「場所——来自根本之处的思索」, 2002, 『世界哲学』(中国社会科学院哲学所), 2002年第5期
58. 「『「いき」の構造』再考」, 2002, 坂部・藤田・鷲田編『九鬼周造の哲学』, ミネルヴァ書房
59. 「翻訳と文化」, 2002, 厦門大学外文学院亜欧語系日語専業・厦門大学日本語教育研究中心編『翻訳と文化』, 厦門大学出版社
60. 「日本文化・東洋文化・世界文化」, 2003, 藤田・下・高坂編『東アジアと哲学』, ナカニシヤ書店
61. Die japanische Kultur und die "Weltkultur", Nishida Kitarōs Kulturlehre an

- der Zeitenwende. In: Hannelore Eisenhofer-Halim(Hrsg.): Wandel zwischen den Welten. Festschrift für Johannes Laube. Frankfurt/M u. a.(Peter Lang) 2003.
- 62.「ロゴスとパトスの統一——三木清の「構想力の論理」(1)」, 2003,『人間存在論』第9号
63. Kunst und Wahrheit, Kū (Leere) und Jōi (Gemüt). In: Ralf Elm/ Mamoru Takayama (Hrsg.): Zukünftiges Menschsein, Ethik zwischen Ost und West. Baden-Baden 2003.
- 64.「和辻哲郎「風土」論の可能性と問題性」, 2003,『日本哲学史研究』第1号
- 65.「鈴木大拙と西田幾多郎」, 2004,『宗教学会報』(大谷大学宗教学会) 第13号
- 66.「日本における西洋哲学の受容と清沢満之」, 2004,『親鸞教学』82/83号
67. Questions posed by Nishida's Philosophy. In: Synthesis philosophica. Vol. 37. Zagreb 2004.
68. Logos and Pathos, Miki Kiyoshi's Logic of the Imagination. In: Synthesis philosophica. Vol. 37. Zagreb 2004.
- 69.「「近代」成立の現場——福沢諭吉の「自由」概念を中心に」, 2005, 西村清和・高橋文博編『近代日本の成立——西洋経験と伝統』, ナカニシヤ書店
- 70.「西田幾多郎の哲学と日本語 (Nishida Kitarō's Philosophy and Japanese Language)」 Bulletin of the Association for Japanese Literary Studies (AJLS). Vol. 5. 2005.
71. Kiyozawa Manshi and Nishida Kitarō. The Eastern Buddhist. New Series. Vol. 35. No. 1 & 2. 2005.
- 72.「哲学と詩歌をつなぐもの——西田幾多郎の「悲哀」をめぐる」, 2005,『点から線へ』第46号
73. Pitanja postavljena Nishidinom filozofijom. In: Filozofska Istrazivanja. Vol. 96. Zagreb 2005.
74. Logos i pathos. Logika imaginacije Mikija Kiyoshija. In: Filozofska Istrazivanja. Vol. 96. Zagreb 2005.
- 75.「異文化間の対話(翻訳)の可能性をめぐる」, 2005, 藤田・デービス編『世界のなかの日本の哲学』, 昭和堂
- 76.「清沢満之における学問と信仰」, 2005,『名古屋教学』第14号
- 77.「哲学史とは何か——明治期における哲学史受容の歴史に触れて」, 2005,『明治哲学與東亞近代哲学的転型・国際学術会議論文集』(中華日本哲学会)
- 78.「哲学史は什麼?——論明治時代哲学史輸入の歴史」, 2005,『明治哲学與東亞近代哲学的転型・国際学術会議論文集』(中華日本哲学会)
- 79.「철학사란 무엇인가——메이지시기 哲学史受容의 역사에 관해서」, 2005,『明治哲学與東亞近代哲学的転型・国際学術会議論文集』(中華日本哲学会)

- 80.「西田哲学と歴史・国家の問題」, 2005,『日本哲学史研究』第2号
- 81.「シェリングとヘーゲル」, 2005, 大橋編『ドイツ観念論を学ぶ人のために』, 世界思想社
- 82.「後期西田の思惟——「行為的直観」をめぐって」, 2005,『日本の哲学』第6号
- 83.「ヘーゲルとシェリング」, 2005,『ヘーゲル哲学研究』第11号
- 84.「近代日本哲学のポテンシャル——「哲学」の意味をめぐって」, 2006,『哲学』第57号
- 85.「哲学と世界認識——西田幾多郎における「東洋」と「世界」」, 2006,『岩波講座「帝国」日本の学知』第8巻『空間形成と世界認識』, 岩波書店
- 86.「二十一世紀の哲学」, 2007,『グローバル化時代の人文科学——対話と寛容の知を求めて』下巻, 京都大学学術出版会
- 87.「対話とは何か——「聴くこと」と「語ること」」, 2007, 片柳栄一編『ディアログス——手探りの中の対話』, 晃洋書房
- 88.「1920年代、30年代のヨーロッパの哲学と日本の哲学の形成・発展」, 2007, 科学研究費補助金研究成果報告書『両大戦間に日欧の相互交流が日本の哲学の形成・発展に与えた影響をめぐって』
- 89.「西田幾多郎の国家論」, 2007,『日本哲学史研究』第4号
- 90.「日本における哲学史の受容」, 2008,『哲学の歴史』別巻『哲学と哲学史』, 中央公論新社
- 91.「ディルタイと西田幾多郎」, 2008,『理想』第681号
- 92.「宗教についての思索と宗教批判——西田幾多郎の思想を手がかりに」, 2008,『宗教研究』第357号
- 93.「フィヒテ哲学と西田哲学」, 2008,『フィヒテ研究』第16号
- 94.「京都学派と新儒学の現代世界における役割」, 2009, 台湾中央研究院中国文哲研究所『国際学術研討会論文集 跨文化視野の東亜宗教伝統』
- 95.「「凍れる音楽」と「天空の音楽」」, 2009,『場所』第8号
- 96.「日本における「哲学」の受容」, 2009,『岩波講座 哲学』第14巻, 岩波書店
- 97.「清沢満之と西田幾多郎」, 2009, 第15回浜風臘扇忌講演録(清沢満之記念会)
- 98.「シェリングと日本の哲学」, 2009,『シェリング年報』第17号
- 99.「「京都学派」とは何か——近年の研究に触れながら」, 2009,『日本思想史学』第41号
- 100.「シェリング哲学の受容と日本哲学の展開」, 2010, 科学研究費補助金研究成果報告書『西洋哲学との比較という視座から見た日本哲学の特徴およびその可能性について』
- 101.「西田・田辺哲学とシェリング」, 2010,『西田哲学会年報』第7号
- 102.「座談会「近代の超克」の思想喪失——近代とその超克をめぐるとの対立」, 2010,

酒井直樹・磯前順一編『「近代の超克」と京都学派——近代性・帝国・普遍性』, 以文社

103. 「哲学とは何か・哲学史とは何か」, 2010, 『日本の哲学』第11号

104. Logos and Pathos, Miki Kiyoshi's Logic of the Imagination. B. Davis, B. Schroeder and J. Wirth(ed.), Japanese and Continental Philosophy, Conversations with the Kyoto School. Indiana University Press, USA, 2011.

105. The Question of Japanese Philosophy. Heisig/Kasulis/Maraldo(ed.), Japanese Philosophy: A Sourcebook, Hawaii UP, USA, 2011

106. 「一九二〇年代のヨーロッパの哲学と日本の哲学の形成・発展」, 2011, 『哲学研究』第592号

107. 「『善の研究』をめぐる研究の100年とその将来」, 2011, 藤田編『『善の研究』の百年——世界へ/世界から』, 京都大学学術出版会

108. 「グローバル化の時代における人文知、あるいは哲学の意義をめぐる」, 2011, 日本哲学会第三回日中哲学フォーラム（日本哲学会・中国社会科学院哲学研究所主催）資料集

109. 「関于全球化時代人文科学及哲学意義的思考」, 2011, 日本哲学会第三回日中哲学フォーラム（日本哲学会・中国社会科学院哲学研究所主催）資料集

110. 「東洋の論理」, 2011, 『日本の哲学』第12号

111. 「田辺元の思索——「絶対無」の概念を中心に」, 2012, 『思想』1053号

112. 「日本如何接受「哲学」?」, 2012, 『日本問題研究』（河北大学）第26巻第1期

113. 「比較思想の可能性と意義」, 2012, 『比較思想研究』第38号

114. 「日本如何接受「哲学」?」, 2012, 『外国哲学』（中国人民大学書報資料中心）2012年第6期

115. 「文化の交差という視点から見た日本哲学」, 2012, 『厦門大学日語文学科設立40周年記念「東アジアと日本学」国際シンポジウム・要旨集』

116. 「思想間の「対話」とは何か」, 2012, 藤田正勝教授研究チーム・中華日本哲学会共同主催「東アジアにおける哲学の形成と思想間の対話」（北京日本学研究中心）資料集

117. 「何謂思想間の「対話」?」, 2012, 藤田正勝教授研究チーム・中華日本哲学会共同主催「東アジアにおける哲学の形成と思想間の対話」（北京日本学研究中心）資料集

118. 「田辺元の生涯と思想——田辺元先生没後五十年を記念して」, 2012, 『求真』第19号

119. 「京都学派哲学與新儒学在現代世界的角色」, 2012, 鍾振宇・廖欽彬主編『跨文化視野下的東亞宗教傳統:個案探討篇』, 台湾中央研究院中国文哲研究所

120. 「日本的なるものへの問い」, 2013, 『岩波講座 日本思想』第1巻, 岩波書店

121. The Significance of Japanese Philosophy. The Journal of Japanese Philosophy, Vol. 1, issue 1, 2013.
122. 「何謂思想問的「対話」?」, 2013, 『世界哲学』(中国社会科学院哲学所)2013年第3期
123. 「文化の交差という視点から見た日本哲学」, 2013, 厦門大学外文学院日語系編『東亜与日本学』, 厦門大学出版社
124. 일본에서의 니시다 연구사의 개관과 현황 (日本における西田哲学研究史の概観と現状), 2013, 西田幾多郎著・金承哲訳『장소적 논리와 종교적 세계관 (場所的論理と宗教的世界観)』, 정우서적 (Jungwoo publishing company)
125. 「ヘーゲル哲学の日本における受容」, 2013, 『ヘーゲル哲学研究』第19号
126. On the Idea of basho in Kitaro Nishida's Philosophy (trans. by Y. Ishihara into English). Ethos 26. 2013 No. 4(104), Lublin, Poland.
127. O idei basho w filozofii Kitaro Nishidy (trans. by D. Chabrajaska into Polish) Ethos 26. 2013 No. 4(104) Lublin, Poland.

【翻訳】

1. ハイデッガー著『ヘーゲル「精神現象学」』(藤田正勝,A.グッツオーニ訳), 1987, 創文社
2. O・ペゲラー著「ヘーゲルからキェルケゴールへ——モーツァルトのドン・ジョヴァンニ」(藤田正勝、谷口静浩訳), 1990, 『実存思想論集』第5巻『ハイデッガーとヘーゲル』, 以文社
3. イエシュケ・ホルツアイ編『初期観念論と初期ロマン主義』(相良憲一・岩城見一・藤田正勝監訳), 1994, 昭和堂
4. L・ジープ「フィヒテとヘーゲルにおける自由の概念について」, 1994, 『フィヒテ研究』第2号
5. L・ジープ「自律と合一——ヘーゲルと1800年までのフィヒテの宗教哲学」, 1995, ジープ著『ドイツ観念論における実践哲学』(上妻精監訳), 哲書房
6. L・ジープ「イエナ期ヘーゲルの実践哲学の自由概念」, 1995, ジープ著『ドイツ観念論における実践哲学』(上妻精監訳), 1995, 哲書房
7. O・ペゲラー「精神現象学の解釈について」(奥谷浩一・藤田正勝共訳), 1997, 加藤・座小田編訳『続ヘーゲル読本』, 法政大学出版局
8. クラウス=アルトゥル・シャイアー「アプリオリな総合——1781年から1817年の間の第一哲学について」, 2001, イエシュケ編『論争の哲学史——カントからヘーゲルへ』(高山・藤田監訳), 理想社
9. 清沢満之『現代語訳 宗教哲学骸骨』, 2002, 法蔵館
10. 清沢満之『現代語訳 他力門哲学骸骨』, 2003, 法蔵館

11. 清沢満之『現代語訳 精神主義』, 2004, 法蔵館
12. 清沢満之『現代語訳 わが信念』, 2005, 法蔵館
13. 清沢満之『現代語訳 在床懺悔録』, 2007, 法蔵館
14. フィヒテ『知識学の叙述(一八〇一/〇二年)』(1) (藤田正勝・美濃部仁共訳), 2011, 明治大学大学院教養デザイン研究科紀要『いすみあ』第3号
15. シェリング『人間の自由の本質とそれに関連する諸対象についての哲学的探究』, 2011, 『シェリング著作集』4a巻『自由の哲学』燈影舎
16. フィヒテ『知識学の叙述(一八〇一/〇二年)』(2) (藤田正勝・美濃部仁共訳), 2012, 明治大学大学院教養デザイン研究科紀要『いすみあ』第4号

【辞典項目】

1. 『ヘーゲル事典』, 1992, 弘文堂 「高貴な意識と下賤な意識」、「経験」、「シェリング」、「自己意識」、「シャフツペリ」、「主人と奴隷」、「ストア主義」、「力の遊戯」、「反省哲学」、「へつらい」、「要請」、「レッシング」
2. 『哲学・思想事典』, 1998 岩波書店 「哲学批評雑誌」、「陶冶・教養」、「ヘルダーリン」
3. 『現代真宗名著活用法話事典』, 2005, 四季社 「和辻哲郎」
4. 『現代倫理学事典』, 2006, 弘文堂 「場所」、「西田幾多郎」、「田辺元」
5. 『宗教学文献事典』, 2007, 弘文堂 「清沢満之『宗教哲学骸骨』」、「岡倉天心『東洋の理想』」、「藤田正勝『若きヘーゲル』」
6. 『宗教学事典』, 2010, 丸善 「絶対と相対」、「観念論と唯物論」
7. 『日本思想史事典』, 2013, 東京堂出版 「西田幾多郎」、「田辺元」、「三木清」、「戸坂潤」、「鈴木大拙」

【書評】

1. E・フィンク著『ヘーゲル』, 1987, 『図書新聞』第566号
2. D・ヘンリッヒ著『ヘーゲル哲学のコンテクスト』, 1988, 『週刊読書人』第1720号
3. 岩本光悦『自我・判断・世界』, 1990, 『宗教研究』第286号
4. 上田閑照(編)『西田哲学への問い』, 1991, 『文化会議』第261号
5. 氣多雅子『宗教経験の哲学——浄土教世界の解明』, 1994, 『宗教哲学研究』第11号
6. H.Traub: Johann Gottlieb Fichtes Popularphilosophie 1804-1806, 1994, 『フィヒテ研究』第2号
7. 門脇佳吉『身の形而上学』, 1995, 『宗教研究』第69巻第2号
8. 源了圓『義理』, 1996/10/13, 産経新聞
9. 伊坂青司『ヘーゲルとドイツ・ロマン主義』, 2000, 『週間読書人』第2335号

10. 竹内整一『「おのずから」と「みずから」——日本思想の基層』, 2004, 『日本思想史学』第36号
11. 高尾由子『シェリングの自由論』, 2006, 『シェリング年報』第14号
12. 時代のなかに立つ西田幾多郎——嘉戸一将『西田幾多郎と国家への問い』, 2007, 『思想』第1002号
13. 今年の三冊(上田閑照『宗教』、藺田坦『親鸞 他力の宗教』、海邊忠治『苦悩とけて絶対の信へ』), 2007, 『仏教タイムス』2007/12/13日号
14. 津田雅夫『「昭和思想」新論——二十世紀日本思想史の試み』, 2011, 『宗教研究』第85巻3輯

【その他】

1. 「ドイツ観念論最古の体系計画」, 1983/2/28, 朝日新聞
2. 「哲学と文献学との間——新ヘーゲル全集(Hegels Gesammelte Werke)刊行の第二段階を迎えて」, 1985, 『創文』第252号
3. 「ヘルダーリンとヘーゲル」, 1986, 『創文』第268号
4. 「解釈と対決——ハイデッガー『ヘーゲル「精神現象学」』をめぐる」, 1987, 『創文』第283号
5. 「西田幾多郎「現今の理想主義」解題」, 1987, 『西田哲学』(茅野・大橋編), ミネルヴァ書房
6. 「ニヒリスト シェリング?」, 1993, 『創文』第346号
7. 「シェリング・ゼミナール京都の活動について」, 1994, 『シェリング年報』第2号
8. 高山・藤田編『シェリングとヘーゲル』「まえがき」, 1995, 晃洋書房
9. 高山・藤田編『シェリングとヘーゲル』「あとがき」, 1995, 晃洋書房
10. 「世界観の創造に向けて——日本哲学研究の新たな一歩」, 1996/3/29, 産経新聞
11. 「人間とルール」, 1996, 『道徳教育推進指導資料(指導の手引き)』6・小学校「ルールを大切にする心を育てる」(文部省)
12. 「対話ということ」, 1996, 『教職研修』1996年4月臨時増刊号
13. 「日本語と哲学」, 1996/12/1, 産経新聞
14. 「日本哲学研究の新しい出発」, 1997, 『京大の世紀』, 紫翠会出版
15. 「シンポジウム「シェリング/ヘーゲル/ヘルダーリン」司会報告」(伊坂青司・藤田正勝), 1997, 『シェリング年報』第5号
16. 「いまなぜ西田幾多郎か」, 1997/7/14, “Kyodo Weekly” (共同通信社)
17. 藤田編『日本近代思想を学ぶ人のために』「まえがき」, 1997, 世界思想社
18. 京都大学創立百周年記念展覧会「知的生産の伝統と未来」, 「哲学者たち」のコーナー解説(西田幾多郎・田辺元・九鬼周造・和辻哲郎・久松真一・三木清・西谷啓治), 1997/10/28-11/24, 京都大学総合博物館

- 19.『フィヒテ研究』第5号「編集後記」, 1997, 晃洋書房
- 20.「思索する人の苦悩——三木清と西田幾多郎」, 1998,『霞城館だより』No.25 (財団法人霞城館)
- 21.「船山先生の遺言」, 1998,『船山信一著作集』第8巻月報, こぶし書房
- 22.『西田哲学選集』別巻2『西田哲学研究の歴史』「解説」, 1998, 燈影舎
- 23.『フィヒテ研究』第6号「編集後記」, 1998, 晃洋書房
24. Ein west-östliches Gespräch. 1998. Festschrift zum 70. Geburtstag von Otto Pöggeler.
- 25.『新しい教養のすすめ・宗教学』(細谷・藤田編)「まえがき」, 1999, 昭和堂
- 26.『転換期のフィロソフィー』第六巻『転換期としての日本近代』(茅野・藤田編)「はじめに」, 1999, ミネルヴァ書房
- 27.「公德心をもって法やきまりを守り、自他の権利を大切にしながら進んで義務を果たす」, 1999,『新小学校・学習指導要領解説講座・道徳』(押谷由夫・伊藤隆二編), ぎょうせい
- 28.「死を見つめなおす」, 1999,『あうろーら』第17号 (21世紀の関西を考える会)
- 29.『武内義範著作集・第5巻』(藤田編)「後記」, 1999, 法蔵館
- 30.『フィヒテ研究』第7号「編集後記」, 1999, 晃洋書房
31. 科学研究費補助金研究成果報告書「西田幾多郎の〈場所〉論の成立とその現代的意義に関する研究」「はしがき」, 2000
- 32.「現代と倫理」, 2000,『改訂高等学校学習指導要領の展開・公民科編』(大杉昭英・七条正典編), 明治図書
- 33.『シリーズ近代日本の知』第一巻『知の座標軸』(藤田編)「シリーズ刊行にあたって」, 2000, 晃洋書房
- 34.「倫理を学ぶ諸君へ」, 2000, 藤田編『理解しやすい倫理』, 文英堂
- 35.『日本の哲学』第1号「編集後記」, 2000
- 36.『フィヒテ研究』第8号「編集後記」, 2000, 晃洋書房
- 37.「しなやかな思考をめざして」, 2000/12/26 京都新聞「提言」
- 38.「田辺元『歴史的現実』を再読して」, 2001,『場』No. 17, こぶし書房
- 39.「務台先生の思索から学ぶもの」, 2001,『務台理作著作集』第2巻月報, こぶし書房
- 40.「鈴木大拙と西田幾多郎の旅」, 2001,『鈴木大拙全集』第20巻月報, 岩波書店
- 41.『京都学派の哲学』(藤田編)「はじめに」, 2001, 昭和堂
42. シンポジウム「美のポリティクス」 司会報告 (岩城・藤田), 2001,『シェリング年報』第9号
- 43.『日本の哲学』第2号「編集後記」, 2001
44. 和辻哲郎『新編日本精神史研究』「解説」, 2002, 燈影舎

- 45.『清沢満之——その人と思想』（藤田・安富編）「はじめに」, 2002, 法蔵館
46. 現代語訳・清沢満之『宗教哲学骸骨』「解説」, 2002, 法蔵館
- 47.『九鬼周造の哲学』（坂部・藤田・鷲田編）「あとがき」, 2002, ミネルヴァ書房
- 48.「清沢満之とアーネスト・フェノロサ」, 2002, 『清沢満之全集』第1巻月報, 岩波書店
- 49.『西田幾多郎全集』第5巻「注解」, 2002, 岩波書店
- 50.『西田幾多郎全集』第5巻「後記」, 2002, 岩波書店
- 51.『日本の哲学』第3号「編集後記」, 2002
- 52.『東アジアと哲学』（藤田・卞・高坂編）「まえがき」, 2003, ナカニシヤ書店
- 53.「バラの匂いと哲学」, 2003, 京都大学文学部編『知のたのしみ 学のよろこび』, 岩波書店
- 54.『西田幾多郎全集』第1巻「注解」, 2003, 岩波書店
- 55.『西田幾多郎全集』第1巻「後記」, 2002, 岩波書店
56. 清沢満之と「浜風」, 2003, 『ひとりふたり…』第87号, 法蔵館
57. 清沢満之『現代語訳 他力門哲学骸骨』「解説」, 2003, 法蔵館
- 58.『西田幾多郎全集』第7巻「注解」, 2003, 岩波書店
- 59.『西田幾多郎全集』第7巻「後記」, 2003, 岩波書店
- 60.「ジョットの描いた一円形——新版『西田幾多郎全集』の刊行に触れて——」, 2003, 『関西文学』第41号
- 61.『西田幾多郎全集』第3巻「注解」, 2003, 岩波書店
- 62.『西田幾多郎全集』第3巻「後記」, 2003, 岩波書店
- 63.『日本の哲学』第4号「編集後記」, 2003
- 64.「解説——『「いき」の構造』をめぐって」, 2003, 九鬼周造『「いき」の構造』（全註釈藤田正勝）, 講談社学術文庫
- 65.『西田幾多郎全集』第9巻「注解」, 2004, 岩波書店
- 66.『西田幾多郎全集』第9巻「後記」, 2004, 岩波書店
67. 科学研究費補助金研究成果報告書「後期西田哲学およびその現代的意義に関する研究」「はしがき」, 2004
- 68.『西田幾多郎全集』第12巻「注解」, 2004, 岩波書店
- 69.『西田幾多郎全集』第12巻「後記」, 2004, 岩波書店
- 70.「真理のことば——死は生に向かって囁みついている」, 2004, 『井上円了センター年報』第13号
71. 清沢満之『現代語訳 精神主義』「解説」, 2004, 法蔵館
- 72.『日本の哲学』第5号「編集後記」, 2004
- 73.『西田幾多郎全集』第13巻「注解」, 2005, 岩波書店
- 74.『西田幾多郎全集』第13巻「後記」, 2005, 岩波書店

- 75.『西田幾多郎全集』第11巻「注解」, 2005, 岩波書店
- 76.『西田幾多郎全集』第11巻「後記」, 2005, 岩波書店
- 77.「異文化理解(翻訳)の可能性」, 2005,『人文知の新たな総合に向けて』、21世紀COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」第3回報告書上巻
- 78.『世界のなかの日本の哲学』(藤田・デービス編)「はじめに」, 2005, 昭和堂
79. 清沢満之『現代語訳 わが信念』「解説」, 2005, 法蔵館
- 80.「思想史における1930年代——京都学派の位置——」, 2005,『日本思想史学』第37号
- 81.「新版『西田幾多郎全集』の刊行にちなんで」, 2005,『日本の哲学』第6号
- 82.『日本の哲学』第6号「編集後記」, 2005
- 83.『西田幾多郎全集』第18巻「人名解説」, 2005, 岩波書店
- 84.『西田幾多郎全集』第18巻「後記」, 2005, 岩波書店
- 85.「日本哲学史」, 2006,『京都大学文学部の百年』「各説」, 京都大学文学部
- 86.「京都哲学会」, 2006,『京都大学文学部の百年』「各説」, 京都大学文学部
- 87.『西田幾多郎全集』第19巻「人名解説」, 2006, 岩波書店
- 88.『西田幾多郎全集』第19巻「後記」, 2006, 岩波書店
- 89.『日本の哲学』第7号「編集後記」, 2006
- 90.『西田幾多郎全集』第20巻「人名解説」, 2006, 岩波書店
- 91.『西田幾多郎全集』第20巻「後記」, 2006, 岩波書店
92. 清沢満之『現代語訳 在床懺悔録』「解説」, 2007, 法蔵館
- 93.『西田幾多郎全集』第21巻「人名解説」, 2007, 岩波書店
- 94.『西田幾多郎全集』第21巻「後記」, 2007, 岩波書店
95. 科学研究費補助金研究成果報告書「両大戦間に日欧の相互交流が日本の哲学の形成・発展に与えた影響をめぐって」「はしがき」, 2007
- 96.『西田幾多郎全集』第22巻「人名解説」, 2007, 岩波書店
- 97.『西田幾多郎全集』第22巻「後記」, 2007, 岩波書店
- 98.『西田幾多郎全集』第23巻「人名解説」, 2007, 岩波書店
- 99.『西田幾多郎全集』第23巻「後記」, 2007, 岩波書店
- 100.『日本の哲学』第8号「編集後記」, 2007
- 101.「『影印本 臘扇記』推薦のことば」, 2008,『影印本 臘扇記』, 方丈堂出版
- 102.「西田幾多郎の思索——「日本文化の問題」をめぐって」, 2008, 京都大学オープンコースウェア
- 103.『日本の哲学』第9号「編集後記」, 2008
104. 西田幾多郎「年譜」, 2009,『西田幾多郎全集』第24巻, 岩波書店
- 105.「京都学派が京都に与えた影響と今日の京都について」, 2009, 京都市職員研修センターホームページ

106. 「京都と京都の哲学者たち」, 2009, 京都市職員研修センターホームページ
107. 西周『百学連環』, 2009, 『岩波講座 哲学』第14巻, 岩波書店
108. 中江兆民『理学鉤玄』, 2009, 『岩波講座 哲学』第14巻, 岩波書店
109. 西田幾多郎『善の研究』, 2009, 『岩波講座 哲学』第14巻, 岩波書店
110. 九鬼周造『「粹」的構造』「中文版出版推薦序」, 2009, 台湾・聯經出版
111. 「中国語版『「いき」の構造』への推薦の言葉（日文版）」, 2009, 九鬼周造『「粹」的構造』, 台湾・聯經出版
112. 『日本の哲学』第10号「編集後記」, 2009
113. 日本宗教学会第68回学術大会パネル「西田幾多郎の宗教思想」、「パネルの趣旨とまとめ」, 2010, 『宗教研究』第363号
114. 科学研究費補助金研究成果報告書「西洋哲学との比較という視座から見た日本哲学の特徴およびその可能性について」「はしがき」, 2010
115. 上田閑照・氣多雅子編『仏教とは何か』「あとがき」, 2010, 昭和堂
116. 『田辺元哲学選』Ⅰ『種の論理』「解説」, 2010, 岩波書店
117. 『田辺元哲学選』Ⅰ『種の論理』「注解」, 2010, 岩波書店
118. 『田辺元哲学選』Ⅱ『懺悔道としての哲学』「解説」, 2010, 岩波書店
119. 『田辺元哲学選』Ⅱ『懺悔道としての哲学』「注解」, 2010, 岩波書店
120. 『田辺元哲学選』Ⅲ『哲学の根本問題・数理の歴史主義展開』「解説」, 2010, 岩波書店
121. 『田辺元哲学選』Ⅲ『哲学の根本問題・数理の歴史主義展開』「注解」, 2010, 岩波書店
122. 『日本の哲学』第11号「編集後記」, 2010
123. 『田辺元哲学選』Ⅳ『死の哲学』「解説」, 2010, 岩波書店
124. 『田辺元哲学選』Ⅳ『死の哲学』「注解」, 2010, 岩波書店
125. 『西田幾多郎の現代思想』中国語版「序」, 2011, 藤田『西田幾多郎の現代思想』, 中国・河北人民出版社
126. 「天籟を聞く」, 2011, 『渡邊二郎著作集』第11巻月報 筑摩書房
127. 『シェリング著作集』4a巻「自由の哲学」「解説」, 2011, 燈影舎
128. 『シェリング著作集』4a巻「自由の哲学」「注釈」, 2011, 燈影舎
129. 「人間とルール」, 2011, 小寺正一ほか編、小学道徳副読本『生きる力』4年, 日本文教出版
130. 「『善の研究』刊行100年」, 2011/5/23, 『読売新聞』
131. 「教員のすすめる一冊 田辺元(著)『哲学の根本問題・数理の歴史主義展開』(岩波文庫)」, 2011, 『京都大学新聞』2011年9月16日号
132. 「『善の研究』刊行百周年記念国際シンポジウム」報告, 2011, 『以文』第54号, 京大以文会

133. 『善の研究』の翻訳, 2011, 藤田編『善の研究』の百年——世界へ/世界から』, 京都大学出版会
134. 「アンソロジー・善の研究」はどのように読まれてきたか, 2011, 藤田編『善の研究』の百年——世界へ/世界から』, 京都大学出版会
135. 藤田編『善の研究』の百年——世界へ/世界から』「まとめと展望」, 2011, 京都大学出版会
136. In memory of Prof. Michael Marra (マルラ先生を偲んで), 2011, A symposium entitled “A Path through the Fields” in Professor Marra’s honor on November 18th at UCLA
137. 『日本の哲学』第12号「編集後記」, 2011
138. 西田幾多郎『善の研究』「注解」, 2012, 岩波書店
139. 西田幾多郎『善の研究』「解説」, 2012, 岩波書店
140. 서양철학의 수용과 변용——동아시아의 서양철학 수용의 문제 (이광래, 후지타 마사카쓰 편)「序文」, 2012, 경인문화사 (『西洋哲学の受容と変容』, 李光来・藤田正勝編 2012 ソウル・景仁文化社)
141. 「日本シェリング協会の20年」, 2012, 『シェリング年報』第20号
142. 「尾田幸雄先生のお仕事」, 2012, 日本道德教育学会編『道德と教育』別冊『尾田幸雄先生 追悼録』
143. 『日本の哲学』第13号「編集後記」, 2012
144. 福岡伸一・植村和秀との鼎談, 2013, NHK取材班編『日本人は何を考えてきたのか——戦争の時代を生きる』, NHK出版
145. “Pour une Redécouverte de la pensée et de la culture japonaises”, 「日本の文化・思想 再発見」 Journées d’étude “Pour une Redécouverte de la pensée et de la culture japonaises” 開催趣旨, Centre Européen d’Etudes Japonaises d’Alsace, a Kientzheim, 2013/9/27-28
146. 京都大学総合博物館・平成25年度秋季特別展「西田幾多郎遺墨展」パンフレット, 2013
147. 京都大学総合博物館・平成25年度秋季特別展「西田幾多郎遺墨展」展示品キャプション, 2013
148. 「西田幾多郎の書」, 2013, 『京大文書館だより』vol.25
149. 「西田幾多郎遺墨展について」, 2013, 『総合博物館ニュースレター』no.29
150. The Kyoto School of Philosophy and its Genealogy, A Prominent Group of Philosophers in the History of Modern Japanese Philosophy. 2013, Research Activities, Kyoto University
151. 「「倫理と宗教」という観点から見た「人間と宗教」の問題」, 2013, 京都大学東京オフィス連続講演会「東京で学ぶ 京大の知」シリーズ12「人間と宗教」第3回,

京都大学ホームページ

152.『日本の哲学』第14号「編集後記」, 2013

153.「倫理と宗教——清沢満之の思索を手がかりに」, 2014,『清沢満之——その精神（にんげん）にせまる』, 大谷大学・大谷大学短期大学部

154. The Purpose and Method of Philosophy (1), 2014, 京都大学大学院総合生存学館 e-Learning教材

155. The Purpose and Method of Philosophy (2), 2014, 京都大学大学院総合生存学館 e-Learning教材

156. 日本倫理学会主題別討議報告「近代日本倫理学の総括ないし反省」, 2014,『倫理学年報』第63集